

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

2

2025 FEB.

第261号

学校長からのメッセージ

1月13日成人の日、本校の連携校（グループ校）の20周年記念礼拝がありました。礼拝では今年二十歳を迎える卒業生たちも迎え、併せて「はたちの祝福式」も行いました。

およそ25年前、「子どもに合う学校がない」という保護者の切実な声を聞いたことがグループ校の「表現・コミュニケーション学科」を創る出発点でした。「勉強がわからない」「学校に通いづらい」「友達が欲しいけど関係が作れない」そんな悩みを抱える中学生が、自信を取り戻して安心でき、居場所となれる学校を創りたい。その思いでできた学科です。

開校してからは手探りの日々でした。例えば、毎年入学礼拝ではスタッフが新生入生を席まで案内しています。

今は当たり前の光景ですが、それを始めたのは「あそこに座って」と手で示したため席が分からず、翌日から来なくなった生徒がいたからです。そのような失敗はたくさんあります。生徒一人ひとりに寄り添い、向き合い、丁寧に対話を重ねることを大切にしながら20年、今も学校の在り方を模索し続けています。

その中で何より驚かされたのは、生徒の変化と成長です。安心できる環境があって関係性が作れる「場」があれば、生徒は劇的に変化しました。卒業生の中に「YMCAで学んだことを周りの人に活かしたら、人間関係がとても良くなった。自分たちはそんな力を持っている」と話してくれました。在学中、自分には良いところはないと思っていた彼が、周囲に良い影響を与えられる存在だと自覚するほどになっていたのです。生徒の可能性を信じ、育ててきた一員としてこれほど嬉しいことはありません。

これからも、私たちは「生徒たちが卒業後も幸せに過ごせる力を育む場所」であり続けるために力を尽くしたいと思います。YMCAのブランドコンセプト「一人がよくなれば世界が変わる」を信じて。

校長 鍛冶田 千文

青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と言う年齢にならないうちに

（コヘレトの言葉12章1節）





今月の聖句

「神は、山々を造り 風を創造され その計画を人に告げ
暗闇を変えて曙とし 地の高き所を踏みつけられる方。」

(旧約聖書 アモス書 4 章 13 節)

私を超えている存在を想う

聖書には何が記されているのか。この問いに対して、いろいろな答え方をすることができます。一例に、私自身の実感を基に表現するならば、「聖書は、神の自己紹介（自己開示）である」というのが、私の心にしっくりきます。私は、聖書の言葉を通して、神そのものに会わせられる、そのような感覚を味わいます。それはまた、しばしば驚きを伴うもので、これまで私自身が抱いていた神へのイメージが更新される体験でもあります。

神とは、どのようなお方であるか。聖書は、第一に、「造り主」であると表明しています。天にあるもの、地にあるもの、すべてを創造したお方であると示されています。つまり、わたしたち人間も含め、すべての存在は、神によって造られたもの、「被造物」であるということです。この表明は、被造物が、決して、「神」にはなれないということを、わたしたちに、良くわきまえるようにと促します。

日頃、聖書を読みながら、印象深く思うのは、聖書の示す神が、なんと被造物に対して、きめ細やかな心を配られるのかということです。神は、「地の高き所を踏みつける方」であり、被造物と全くスケールの違う存在であるにも関わらず、被造物すべてに対して心を向け、関心を注いでいる。この神の想いの現れが、聖書の分厚さにも現れているのだと思います。神が、このちっぽけな私のことを、わたしたち人間のことを、どう想い、働いて、語りかけてくださっているのか。わたしは、それを知りたくて、今日も聖書を開きます。

(日本キリスト教団 奈良高畑教会牧師 藤川義人)

